

会山行報告書

通算山行NO	NO. 380B	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2009年05月02日(土・快晴)	2万5千	富士山
山 名	富士山(3776m)・富士宮口		
体力度 = 5・厳しい 技術度 = 4・やや難しい 道標 = ある 駐車場 = あり トイレ = 5合目 展望度 = 素晴らしい 三角点等級 = 二等 点名 = 富士山			
<h2>日本最高地で山スキー</h2>			
コース とタイム	5合目発5:00 - 八合目(約3250m) 8:45 - 9合5勺(約3550m) 9:25 - 頂上10:10 ~ 40 - 5合目11:50		
標 高 差	上り = 5合目約2400m ~ 剣ヶ峰3776m = 約1376m スキー下り = 富士宮口頂上約3700m ~ 5合目 = 約1300m		
参 加 者	L後藤隆徳(62) 山本佳樹(42)		



厳しい上り

久しぶりに前夜5合目で一夜を過す。天体観測の人達が多く、道端に大きな望遠鏡が並んでいた。

山本氏は22時ころ来たらしいが、私は21時ごろ眠くなり横になってしまった。お陰で楽しみだった「宴会」はナシだった。

翌朝は素晴らしい朝が明ける。気温も高く薄着でも全く寒くない。無風・快晴・高温が富士山頂上山スキーの絶対条件で、これが一つでも欠けると厳しい。

積雪量は多くもなく、少なくもなくマアマア。5時、気合とともに出発。スキーは最初から担いで行く。

登山者が1名、スキーヤーが2名先行している。下を向きただひたすら上る。気温上昇と共に、モーレツに暑くなる。

富士山の場合、遮る物がないから、出来

るだけ早く出発し、涼しいうちに上るのがポイント。

3000mを越えると苦しくなる。日本人は概ね3000mに順応している。ある意味、3000m上は未知なのだ。スキーセットは全部で10Kg。ここから滑ってしまいたい誘惑に何度も駆られる。

こんな苦しい思いをしてまで、何で富士山でスキーなのかと、我ながらこの「ビョーキ」には、呆れる。8合付近から、元気な山本が先行する。

富士宮口の鳥居が見えたが、ここからが長い。それでも気がついたら、結局スキー



剣ヶ峯から滑る山本

隊では先頭で剣ヶ峯に向かっていった。

先行した山本が剣ヶ峯から滑るので、それを撮影すべく火口の縁でカメラを構える。

しかし、富士山は見た目より遥かに大きいのだ。滑る山本は余りに小さく絵にならない。

再び合流し富士宮浅間神社小屋物置横から、いよいよ大滑降に入る。この日トップの滑降だ。万年雪沢（仮称）上部はやや硬いが問題はない。

50mほど横滑り後は、超快適な雪面をブツ飛ばす。横ではまだ後続隊が喘ぎ上っている。

日本最高地でのスキーだ。大斜面は果てしなく続き、落ちて落ちて落ち続ける。8合下で群馬の友人Kさんに会った。

そしてギャラリーが見守る5合に怒涛

の如く滑り込む。

上り5時間、下り1時間。

今年も試練の山は終わった。



富士山は大き過ぎる

群馬の友人
Kさんに会った

